

サラ突通信

最終号

ホームページ <http://sarabun.org>

(第227号) 2017年3月号 サラ文イベント思い出シリーズⅦ
サラ文 お花見 (市ヶ谷土手)



2011年 市ヶ谷土手での初回



2010年 花冷えでも大丈夫



2010年 見物客で一杯



今年は
3月29日(水)
いつもの市ヶ谷土手



2016年 週日のお花見



2006年か 桜は満開、芸も好調

サラ文を通じてより豊かな人生を！！

サラ文・NARP関東 平成29年 3月～ 行事予定表

サラ文主催(NARP関東会員もお気軽にどうぞ) □は先月号掲載 ○は今月号に掲載

日時	行事名	記事 有無	会場、集合、申込先	備考
3/3(金)～ 5(日)	輝く雪原をスノーシューで 歩きましょう	○	奥日光・戦場ヶ原 泊：はじめのいっぽ 問合せ：品川慶子090-2223-1752 kshinagawa@nifty.com	
3/08(水) 18:30～	3月でおしまい・思い出楽しく 「第2水曜に集まろう会」 ありがとう	○	新宿「KIZENBOU」新宿三井ビル3F 03-3345-5341 幹事：品川慶子090-2223-1752 kshinagawa@nifty.com	
3/09(木) 15:00～17:00	夏目漱石ロンドン 留学体験話	○	サラ文事務所 主宰：斉藤明雄 090-4734-4530 a.saito-ns77@jcom.home.ne.jp	
3/29(水) 10:00～	最後のサラ文お花見	○	市ヶ谷土手 会費なし	
4/12(水) 14:00～	サラ文事務所お別れ会	○	サラ文事務所	
サラ文会員の主催または関与(NARP関東会員もお気軽にどうぞ)				
3/06(月)14:00	サラ文「古文書」昼	-	サラ文事務所 主宰 東山道之 03-3361-5297	
3/27(月)14:00				
3/09(木)18:00	サラ文「古文書」夜	-	higashiyama@jcom.zaq.ne.jp	
3/23(木)18:00				
3/27(金) 17:30～	稔の秋研究会	○	中国家庭料理「全家福」 JR目黒駅から約5分 問合せ：河東みどり090-9154-4496	

NARP関東

3/02(木)13:00	カラオケ同好会		カラオケ館 新橋本店	石井幹事 03-3992-3478 伴野幹事 080-1208-1230
3/16(木)13:00				
3/13(月)12:15	グルメ 「スカイレストラン椿山荘」		文京シビックセンター1階 総合案内辺り	鈴木幹事 045-383-6489 越元幹事 080-5056-4324

* NARP(日本退職者協会)関東とサラ分は提携関係にあり、お互いの行事に関しては自由に参加可能です。

大八木会長あいさつ

会員の皆さま、いよいよサラ文も3月をもって活動を終了します。長い間サラ文の活動を支えて戴いたことに感謝申し上げます。またこの「サラ文通信」をお読み戴けているのは現会員だけですから、既に会を退会された旧会員の方々にはこのメッセージをお届けできないことが残念です。旧会員の皆さまにも会の活動、発展に大いに貢献戴いた方々が、大勢いらっしゃることを忘れないでおきたいと思っております。さらにこの「サラ文」という団体を立ち上げ、マスコミの注目を浴びる中で会を大きく発展させて戴いた藤井前会長にもお礼を申し上げたいと思っております。私個人としては、現役サラリーマン時代から定年後の現在に至るまで、充実した社会生活を送ることが出来たのは、「サラ文」あってこそだと心から思います。職業も違い、趣味も違い、物事の価値観も違い、生活環境も違う人たちが一つの大きな輪になって「サラ文」という、世の中で非常に珍しい団体として存在し得たことは、非常に貴重なことであり、誇ってよいことだと思います。もしも、もう一度このような団体を再び立ち上げようとしても、きっと不可能だと思います。会員の皆さまには、今後はサラ文で培った人脈を大切にされ、それぞれの地域でのボランティア活動や、同好の士の集いや飲み会などで旧交を温めて戴きたいと思っております。

それでは、皆様がこれからもどうか健康に留意され、充実した人生を送っていただくことを祈念致しまして、私の「サラ文終了」のご挨拶と致します。有難うございました。

編集感想

太田 宏

一時期、お手伝いをさせて頂いた太田です。最終号を完遂された皆様本当に長い間ありがとうございました。サラ文通信が表紙を含め完全にデジタル化できましたのは2014年1月号です。それまでは切り貼りの原稿だったり手書き原稿をタイプし直すという作業で事務所がてんやわんやの大騒ぎでした。それも懐かしい思い出です。最近では編集前のフルセットを事前に作成し編集会議当日はレイアウト編集や校閲の作業に集中でき効率化されました。これも原稿を投稿される方々がデジタル化に協力して戴いたおかげです。巡礼準備という個人的理由で編集作業を後藤さん(故人)や東山さんや落合さんに、通信の内容に基づくHPの更新を波多江さんに替わって戴きました。本当に皆様ありがとうございました。

「サラ文は私の財産です」

河東みどり

サラ文に入会して25年。その間、色々な趣味や特技のある方々都出会いました。その方々との交流することで25年間楽しく充実した時を過ごすことが出来ました。

残念ながらサラ文は3月で解散となりますが、これまでに培った人たちとの交流は続けていきたいと思っております。サラ文の会員の方々は私の財産です。面白い企画や集いには是非お声をかけてください。

最後に、これまでサラ文を支えてくださいました幹事の皆さま、編集の皆様へ感謝をいたします。ありがとうございました。



今回でおしまいの3月の第2水曜に集まろう会で楽しもう

この会はもう20年間続きました。毎月の第2水曜日、雨や雪でもいつも開かれていました。会場が代っても、珍しい・面白い・話題豊富で賑わいのある会でした。尽きない思い出など美味しい肴と一緒に飲み語りましょう。

又有志での持ち回り世話役システムのそれぞれが協力出来、長く続けられたのだと思っています。有志の皆様、ご参加の皆様、ありがとうございました。

サラ文会員の皆様がイベント以外に会える場所がこの第2水曜会でした。近況報告や暫くぶりの方や、！多くの皆様のご参加をお待ちしております。！

日時：3月8日（水） 18：30～21：00

場所：新宿「KIZENBOU」

新宿三井ビル3階 ☎03-3345-5341

新宿駅西口地下改札を出て真っ直ぐ行き地上に出た右側です。

会費：3500円

◎ご参加される方は3月6日までに今月の幹事品川慶子宛ご連絡願います。

連絡先：03-3665-5285

090-2223-1752

kshinagawa@nifty.com

●申し込み後のキャンセルは、必ず前日までに担当幹事までご連絡ください。

○尚、当日急にご参加される場合は午前中までにご連絡願います。

「生誕150年 夏目漱石講演会」のご案内

日時：2017年3月9日（木）15：00～17：00

会場：サラ文事務所 新宿区西新宿7-11-15

ミヤコビル503号

テーマ：夏目漱石のロンドン留学体験

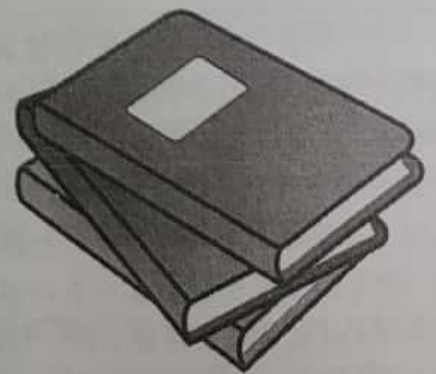
主宰・講師：斎藤明雄

申込み：同上（携帯090-4734-4530）

a.saito-ns77@jcom.home.ne.jp

会費：500円（サラ文事務所活用料金+資料代）

二次会（希望者のみ）：17：30から近所の飲み屋で



東京陶芸展のご案内

第14回東京陶芸展（公募展）の開催

和田秀雄

会場 北とびあ展示ホール JR王子駅北口下車、徒歩2分

会期 3月23日（木）～3月27日（月）

主催 東京クレイワークス 後援 東京都・北区 他

*来場者も審査参加できます。因みに2011年第9回大会ではクレイワークス賞を受賞しました。
moderato@kdt.biglobe.ne.jp

たかがサラ文、されどサラ文、サラ文雑感 編

府川謙吾

お江戸両国亭での催し物では、「小田原から来た府川です」、「小田原から、大変ね!」、第2水曜会では「毎月ハーフタイムコーナーを」書かさせて頂いてます、「毎月楽しく読んでますよ」。また、サラ文通信が毎月届くのを楽しみにしていました。様々な場所で、色々な方と巡り合いました。25年前、府川が社会に出て、数年の時に、手に取って読んだ新聞の社会面の「サラリーマン文化芸術振興会」の紹介の記事。そこで、サラ文に入会し、実に人生の半分をサラ文と共に歩んで来ました。思い出は数多くあります。夏山登山、皇居マラソン、正月恒例の駅伝の追っ掛け応援ツアー。その他にも、大変盛況した小田原ツアー、当時代表幹事だった〇さんとのサラ文通信掲載記事を巡っての夜の電話での、大激論、当時は毎日毎日が必死でした。今回、このような結果になり、やや気が抜けた感じです。よくありがちなフレーズですが、まさか今こうなるとは思ってもいませんでした。原因は色々あると思いますが、サラ文通信に度々掲載された会員増強、財政不足等の記事。私もそうですが、失礼ながら、サラ文会員全員が真剣に向き合っていたのかなとも思います。ただ何となく読んでいたり、「対岸の火事」の様に感じたりした方も多いのでは。4月には、会員の名簿が配布され、新たに個人としての活動になります。どうなるかは分かりません。今まで、「大変個性がありユニークな方々の集団だった」サラ文を支えて頂いた、幹事会並びに、編集部の方々、本当にお世話になりました。色々有り難うございました。そして、ご苦勞様でした。しばらくして、サラ文同窓会や、個人の繋がりにより、例えば、名称を変え「シニア文化交流会」等、立ち上げてもいいのでは。いつの日か、〇〇通信 第228号を発刊するのを夢見たいですね。また、これからも「サラリーマン文化芸術振興会 府川」をよろしくお願いいたします。そして、何かの際には是非お声を掛けていただけたら大変嬉しく思います。

さよなら新年会に参加して

神谷博行

2月11日、お江戸両国亭の「サラ文さよなら新年会」に参加しました。私は、まだ入会して3年なので、2回目の新年会が「さよなら新年会」になりました。当日は、創立時のメンバー、NARPの方々など盛会でした。一芸を演じる人も、観客の人も、さよならを感じたのか、ふだん以上に気合いが入っていたと思います。飲み物は、「獺祭」や非売品の焼酎など多彩でした。食べ物も、嗜好を凝らしたものがたくさん並びました。最後に、円陣を作り合唱し、大八木会長の胴上げに参加できました。私は、飲み物の買い出しと、拍手で、参加しました。持参した、ビニール袋いっぱいのお餅のルッコラが評判よく全部売れました。サラ文は、会の出欠も自由で、とても居心地の良い場所でした。その分だけ幹事の方々、大変な苦勞をされていたでしょう。ありがとうございました。

サラ文

さよなら新年会

飯野 正勝

平成29年2月11日(土)、サラ文の「生き字引・物知り・風流人・通人・食通・才女・哲人等」が40名程、サラ文でお馴染みのお江戸両国亭に集まり「サラ文さよなら新年会」を開催しました。

巷は「建国記念日」、快晴で気温もまあまあ、10時半には、大八木会長を始め多くの幹事さん・毎回の行事に熱心に参加して下さってる会員、時々会員、暫く来られなかった会員も久しぶりに顔をそろえて、友好の内、会場設営に精を出しておりました。サラ文創立以来25年目の最初で最後の「さよなら新年会」とは思えないほど、和やかに。

11時の受付開始と共に、各人が思い思いのキーワード「一文字」を半紙に書き、壁に貼り付け、それを全員で「熟語=2文字熟語・3文字熟語・4文字熟語」を創ろうと、アゲアゲを出してくれた人もまた、秀才の一人ですね。私は詩吟から「吟」を選びました。44年間詩吟を学び、私の人生の3/4です。

そこで、携帯で撮った写真を可能な限り熟語にしてみました。文字が小さく、僅かに「心・吟」「吟・道」「道・理」「理・知」「知・行」「行・幸」「幸・生」などの熟語になり、もっと大きく撮っておればと感じました。

11時半、会場内は美味しそうな良い香りが漂い、喉が鳴るようなアルコールが目の前に並び、心が豊かに。料理は各人が持ち寄り、近くで調達、ご自宅で料理を作り、時間に合わせて良い具合になるように、持参して頂いた食べ物もあり、各テーブルを賑やかにして頂きました。

12時10分、大八木会長のご挨拶と乾杯の音頭で楽しい祝宴が始まりました。暫くぶりの歓談に花を開かせ、まるで高校の同窓会のように見えました。年齢的には老若の違いはありますが、サラ文25年の歴史を語る人、マラソンで四万キロ走ってきたと話す人、会員になられて間もない会員も一緒になって、過ぎし日を懐かしんでおりました。宴もたけなわでしたが、そろそろ恒例の余興と相成りました。

13時45分、サラ文特有のパフォーマンスが始まりました。プログラムの順番は尺八の阿倍先生の「阿弥陀くじ」。公正なる順番決定でありました。一番は結局、私の詩吟「青山歌」で、過去のサラ文でも吟じた事を覚えております。2番は、阿倍氏の「語り付き尺八演奏」、3番は歌「また会う日まで」の熱唱、4番は加藤・永井氏の尺八と朗読のコラボ「佐渡の物語」、5番は下田氏の詩吟「真田太平記」、6番は若代氏の尺八演奏「五木の子守唄・恋のアラフス」、7番は永吉氏のバイオリン「のんき節・よいとまけ」、8番は佐々木さんの「三味線一桜・勸進帳の演奏」、9番は金子さんの「踊り一木遣り」、10番は小花師匠・坂手弟子両氏の「草笛演奏-自然のささやき」、11番は宮崎氏の「民謡一秩父音頭」、12番の佐藤さんの「朗読」は欠席、13番は有山さんの「オペラ熱唱一桜・オーソレミオ」、14番は流尾氏の「歌曲一雪が降る・映画ゴットファーザーのテーマ」、15番は小林氏による「面白スクール」各人の脳が柔らかくなったようです。16番は白鳥氏の音頭「みんなで歌おうで一早春譜・お富さん・ふるさと・蛍の光・上げば尊し」の大合唱、さらに「いつでも夢を・友達でいよう・明日の日を夢見て・希望の道」と続けました。最後に小林氏の提案で「サラ文の会長・大八木元氏」の胴上げ」と言う事で、三回ほど挙げましたが、落っことして怪我しなくて良かった、しかし重かった。大トリは山谷氏の音頭で「三本締め」で締めました。

昔、中国の晋の時代の漢詩作家、陶淵明の作品の中に：

「盛年重ねて来たらず 一日 再び晨なり難し 時に及んで当に勉励すべし 歳月は人を待たず」
(若いときは二度と来ないし、一日のうち朝は二回来ないよ、よい機会を逃さず充実した時を過ごすように励むべきだ、歳月はどんどん流れ去り、人を待ってはくれない。その為に、今を大いに楽しめと、後世に残しました。(サラ文の皆さんは、この道の達人でした。)



さよなら「サラ文」

永吉一久郎

さる2月11日(土)、サラ文最後の新年会「サラ文さよなら新年会」が、お江戸両国亭で行われた。11時から準備、12時過ぎから大八木会長の挨拶と乾杯の音頭で始まる。飲みながら皆さんが持ち寄った美味しい品々、酒の肴から甘いもの等に舌鼓を打ち、しばし歓談。和んだ所で一文字遊び。それぞれが書いて壁に貼りだした一文字を前に、それぞれの皆さんが思いを語った。私は芸名、楽四季一生から「楽」だった。同じ文字の方がおられて、19秒よりは短い握手(笑)。その後は恒例の一芸を持った方たちのパフォーマンス。詩吟から始まり尺八、三味線等の演奏、朗読から踊り、民謡、オペラまで楽しい演目の数々。私も最後のかくし芸と参加。「ヴァイオリンの弾き語り」小ヴァイオリンをギターみたいに弾く、多分世界で誰もやってない芸(?)で「かえり船」「ヨイトマケの唄」を唄った。最後の演目は、皆さんで合唱。サラ文選りすぐりのキレイどころ(?)が舞台上がり白鳥さんのハモニカ伴奏でいろいろ唄った後、昔、閉店の時よく流れた「螢の光」、卒業の定番だった「仰げば尊し」「故郷」と続き最後はサラ文締め唄「今日の日はさようなら」を皆で輪になり、肩を組んで唄い納めた。そして、兄弟的な会「ナーブ関東」の皆さんの紹介があり、三本締めでお開きとなった。これで最後かと思うと寂しい気もしますが、新たなる可能性を探るための一区切り、発展的解消と前向きに捉えて、それぞれご活躍していただきたいと願っております。皆様、ありがとうございました。ささえて下さったスタッフの方々にも感謝。お疲れ様でした。最後に三月の春の小川をイメージして一句。サラ文や サラなる飛躍と サラサラ行くよ サラばサラ文。

明るくて 温かくて、楽しい

有澤 多津子

2月11日土曜日、お江戸両国亭の玄関に入ると、中からにぎやかに談笑する声やおいしそうな匂いがしてきます。テーブルの周りでは大勢の人が、一品持ち寄りのごちそうを食べ、ビールやお酒を飲んでいました。和服姿やドレスの女性もいます。舞台の背面に紅白幕が張られ、天井近くの紐に「サラ文サヨナラ新年会」と一文字ずつ書かれた画用紙が下げられています。

そうなのです。今日は「サラリーマン文化芸術振興会」の最後の新年会なのです。発足してから25年、沢山の仲間が集い、さまざまなイベントをし、学び、ボランティアをし、それぞれの人生を豊かにしてきました。でも残念ながら3月で閉じるのです。

私は仕事や孫の世話などで忙しく、ひとまず退会していたので会報は届かず、閉じることも知らぬままに過ごしていました。一月の中ごろ、会長の大八木さんから電話がかかってきました。

「有澤さん、また入会すると言っていたけど、3月で解散するよ」

「えっ! うっそー!」サラ文が解散するなんて夢にも思っていなかったもので、せめて2ヶ月だけでもと、大慌てで再入会しました。

新年会は開会の辞と乾杯で始まりました。参加者一言スピーチは、自分の好きな文字を書いてそれについてしゃべります。スピーチからそれぞれの人生が感じられます。さあ次はいよいよ一芸スタートです。尺八、草笛、三弦、オカリナ、歌、朗読、踊り、クイズ等々、どの人も達人です。若かりし頃の気持ちのままに、体も柔らかくに表現しています。NARP(日本退職者協会)関東の会長さんをはじめ6名の方々が、駆けつけて下さいましたよ。その温かさが嬉しいですね。サラ文は兄貴分で後から発足したNARPは弟分、いつでもどうぞ来て下さいとご挨拶。次は皆で唄おう。輪になって手を組んで「今日の日はさようなら」何だかじーんときます。

最後は大八木会長の胴上げ。体力も衰えているのに一生懸命力をふりしぼって男性陣が会長を胴上げします。永い間、重責をありがたい感謝の気持ちが場内に溢れ、周りの女性陣の目から涙がこぼれそう。四分の一世紀の間、大勢の人々の心に灯をともしてきたサラ文は、解散してもそれぞれの心の中で燃え続けることでしょう。

稔の秋研究会 報告及びご案内

◎2017年3月・稔の秋研究会 案内

食事をしながら、活動のアイデアを楽しく話し合っています。どなたでもご参加下さい。飲んで食べるだけの参加も歓迎です。

日時：2017年3月27日(月) 17:30～

場所：中国郷土料理「全家福」(目黒店) 目黒駅から5分。

目黒区下目黒1-2-22(セザール目黒2F) 電話：03-5759-6587

ご連絡いただければ迎えに行きます。

議題：今後の活動について他フリートーク

会費：実費(約2500円程度)

問合せ：河東みどり 090-9154-4496 m.kawahigashi200803@docomo.ne.jp

◎2017年2月・稔の秋研究会 報告

2017年2月17日(金) 17:30～

出席者：藤井忠生、中島邦子、神谷博行、加藤三郎、藤由雄蔵・藤由知子夫妻、森安江渡辺正幸、稲葉靖、黒田清久、辻幸男、藤岡庄衛、井上昇、デイ・菊、河東みどり
藤岡さんと井上さんは中島邦子さんの高校の同期、デイ・菊さんはデンマークの方で加藤三郎さんのお知り合いの方です。

今回は前回よりさらに増え、総勢15名でわいわいがやがや大いに盛り上がりました。

話し合ったこと。

1. 次回研究会の日程の決定。
2. 稔の秋研究会はサラ文が終了となっても続けていくこと。連絡は野崎さんをお願いします。
日程等についてのお問い合わせ先は野崎さんをお願いします(携帯電話：090-5430-4589)
3. 3月の古ビルカフェはお休みにする。
その他フリートーキング。



～ 最終回 改善できるといいな～

学校で働いていて、奇妙だなということを書き続けてきました。読みかえすと、現在の教育、特に中学校を取り巻く矛盾点が、数多く書かれていると思います。

そして、解決への近道、そして、激変している 21 世紀の次代を支える人間の育成方法の最たるものは、国の教育制度を変えることだということを感じて、数多く繰り返し書いています。明治時代のような大改革をするチャンスであるのです。人口の特に子どもの減少などは逆にチャンスなのです。江戸時代の末、ペリーが来て日本は激変しました。日本は外乱がないと変わらないのでしょうか？今は、そういうことと同じ状況かどうかはわかりませんが、率先して、いろんなことを変えるには国が動かないとだめなのだと思います。そういう賢明な風潮が沸き起こって欲しい。

今月はいよいよ最終回ということですが、まだまだ現代の変容した教育の内容をあげて、どうしていけばいいのかを続けたいのですが、残念です。最後の会として今までを振り返り、再度みなさんにも理解を深めていただきたいと思います。真に変わることを願って。

全 17 回で取り上げた全体の内容

回	タイトル	テーマ	内容
1	僕の使命	自分の紹介	校長になったこと
2	現代日本の現実1	ストリートスマートの紹介	Street smartの概念
3	現代日本の現実2	ストリートスマートの実例	アポロ13号、チリの落壁
4	現代日本の現実3	アイデンティティを持つ	日本人の紹介
5	現代日本の現実4	親の意識の変容または劣化	家庭生活の放棄
6	現代日本の現実5	先生の変容1	先生の質が変わった
7	現代日本の現実6	先生の変容2	先生の生活時間、非常勤講師の本当
8	現代日本の現実7	先生の置かれている環境の変容	仕事時間、ブラック度
9	現代日本の現実8	先生の置かれている環境の変容・部活動	先生の部活の取組の実態
10	現代日本の現実9	PTAとその活動の変容1	現在のPTAの実態
11	現代日本の現実10	PTAとその活動の変容2	国の代表、一緒に子と育つ
12	現代日本の現実11	先生の置かれている環境の変容・部活動2	部活動の改善方法
13	現代日本の現実12	貧困の事実1	子ども貧困とその解決方法
14	現代日本の現実13	貧困の事実2	相対的貧困率、どうせ僕なんて
15	現代日本の現実14	その他の事実I	トイレ、日本の伝統をどうするか？
16	現代日本の現実15	その他の事実II	LGBT,発達障害
17	現代日本の現実16	まとめ	最終回 改善できるといいな～

この表のように、現在の教育を取り巻く状況を子ども、保護者、先生、地域、施設などについて具体例をあげて、その取り組み方や考え方などを書かせていただきました。

学校 特に中学校を取り巻く矛盾点が挙げられたと思います。皆さんは、どう思いながらお読みくださっていたのでしょうか？知らなかった？ほんとう！？と言われることが多かったと思いますが、全て僕の周りで起こっている、現在進行形の出来事です。強烈なことがありオブラートをかけていることも多々あります。振り返ってみると、僕がPTA会長をやっている、その時の経験が強烈で、普通のサラリーマンをやめ、公務員それも公立学校の校長になったことによって、みんなとは違う感じ方をし、違う対処法をし、違ったことを話してきました。その中で認められることもあり、それなりに信頼度が上がったなど感じて、いろんな事ができたように思う部分も多くあります。が、体制を変え

るまでには至っていません。

しかし、「信じて話し、共感をしてくださる人を増やすために必要なことは何か？」が少しは分かった気がします。それは「わくわくすること」「情熱をもって語り、情熱を人に伝えて、情熱をもって動く」ということです。自分は、特に校長として、そうしています。これはすべての事につながるのだと思います。「情熱を語り、進む」姿勢で取り組みれば、いろいろ変わってきます。情熱が一種の高揚感をうみ、みんなが、よいなあと考えるようになると思います。

そうしながら、「今教育に一番欲しいことは、次の5つかなど、思いました。それは、①20人前後の教室で、きちっと先生が授業できること。考えるテーマも自分で形成し、それを自分たちで解決できる力（Street Smart 力）をはぐくめる仕組みづくり。②先生の労働条件の整備。③家庭教育が成り立つ家庭の確立。④親が自分の子どもを育て一緒に育つという意識の醸成。⑤困窮問題や発達障害などに対する対応をRSTOPでできる学校を含んだ行政等の仕組みづくり。

だと思えます。あえて5つの項目に絞りました。これらの事を解決、実現するために、国の教育制度の方針として真剣に取り組んでほしい、と考えています。

そして、最後に、これらとは程遠い議論をしている国の状況を紹介して終わりにさせていただきます。それは、教員の定数です。こんな議論をしている限り、大きな変化はあり得ない。嘆かわしい限りです。皆さんはどうお考えになられるでしょうか？

新聞の記事を切り抜きます。教員定数に関する話です。

① 2015年12月19日 - 政府は2016年度の公立小中学校の教職員定数について、15年度よりも3470人超減らす方針を固めた。少子化に伴って自然に減る3100人に加え、370人超を削減する。自然減を上回る削減幅としては過去最大となる。

② 文科省は2016年11月8日、財務省の教職員定数を10年間で約4万9千人減らす案について、反論する見解をまとめた。特別支援教育や日本語指導が必要な児童生徒の増加など多様な課題に対応するために約1万5千人の減少に留めていく方針。

*少し解説をつけます。(教職員定数は、学校数や学級数に応じて配置する法定の基礎定数(校長や教頭、養護教諭など含む)と、教育上の特別の配慮などの目的で予算措置で配置する加配定数とで成り立っていますが、現在、基礎定数は10クラス37当たり16.3人、加配定数は同1.6人、合計約18人となっています。教員数をめぐる問題の一つは「加配定数」です。公立小中学校の教員給与などの人件費は、国が3分の1を負担しており、その金額は、教員が何人必要かという「教職員定数」で算出されます。教職員定数には、学級数などで機械的に決まる「基礎定数」と、毎年度の予算折衝で数が決まる「加配定数」の2種類があります。)

そこで、文科省と財務省の駆け引きが始まり、收拾がつかないのです。総理大臣からの教育構想が出され今後の日本の人作りをどうしたいのか？基礎デザインがあれば、お金を支配している財務省がどうしても主導権をもったナンセンスな駆け引きはなくなるではないでしょうか？

実際このような記事や以下に記載します記事のような内容が現実としてまかり通っています。今後、少子化の進展により、平成36年度までに子どもの数は94万人、クラス数は2.1万クラス減少する見込みです。減少するクラス数に応じた基礎定数を義務標準法に従って算定し、また、加配定数の割合を現在の水準に維持することで、「10クラス当たり約18人の教職員」という現在の教育環境を継続させるとすれば、教職員定数は約3万7千人の減少となります。更に今後、少子化の進展に伴い学校統廃合の加速が見込まれます。実際、学校数は直近5年間では小学校で毎年250校以上、中学校で毎年50校以上のペースで減少しているそうです。

文部科学省が策定する「教職員定数改善計画」は、教育の質の向上等の観点からクラス当たりの教職員定数の割合を平成36年度までに増加させるものとなっています。具体的には、基礎定数はアク

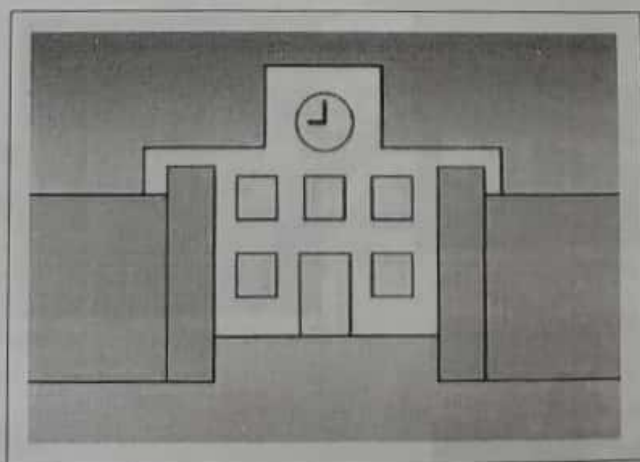
ティブ・ラーニングの実施等により「自然減」よりも減少幅を小さくし、約1万6,000人の減とした上で、加配定数はいじめ問題への対応などを理由に約1万人の増とする計画となっています。これは、先の「教育環境の現状維持」に比べれば、教職員定数にして3万人以上の増であり、平成36年度において、公財政支出は約2,100億円、国費ベースでは約700億円の増加となるのだそうです。財務省は、通級指導（特別支援教育の1つの方式）と日本語指導の教員定数を基礎定数に組み入れることには賛成しているものの、加配定数の増加は認めない考えです。少子化による児童生徒数減少で、放っておいても、これから基礎定数は減少していき、そのうえで加配定数の増加を認めなければ、教員数全体を大幅に削減できる……という狙いです。つまり両省は、基礎定数の変更までは同じ方針でも、その後の加配定数の扱いについては、まったく別の考え方を持っているわけです。

今キーになっているのは、中長期的な文科省の「教職員定数改善計画」の策定です。政府が認めた教職員定数改善計画があれば、今後、毎年度の予算折衝で、財務省が加配定数を大きく切り込むことが難しくなるからです。言い換えれば、通級指導と日本語指導の教員定数を基礎定数に移すという文科省の戦略が功を奏するかどうかは、教職員定数改善計画を策定できるかどうかにかかっていると言ってもよいでしょう。文科省は、2017（平成29）年度から10年間で公立小中学校などの教職員を2万9,760人増やす計画を、概算要求の中に盛り込んでいます。

一方、財務省は、教職員定数改善計画の策定を、絶対に認めない方針です。仮に計画策定が認められなければ、児童生徒数の減少により、今後10年間で公立小中学校の教員は4万5,400人も減ることが見込まれています。年末の予算折衝の中で、文科省が教職員定数改善計画の策定に失敗すれば、公立小中学校の教育環境はより厳しいものになっていくことは確実でしょう。

「加配定数」や「教職員定数改善計画」などは、一般の保護者などにとってあまりなじみのないものでしょう。けれどもこの二つが現在、子どもたちの教育環境の改善のために大きな焦点となっているということは、知っていて注視していく必要があるでしょう。たいへん複雑なことですが、ちょっとは分かっただけかもしれませんでしょうか？しかし、私は、この基本構想は現状維持のための物であり根本の仕組みの変更になっていないのでどうしたものかと思っています。

いよいよ終わりです。長い間、このコーナーを読んでいただいていたありがとうございます。非力ですが、まだ、戦い続けます。教育は本当に、国にとって、いや人類にとって最重要課題だと思います。改善がどんどん進みますように、原稿を掲載して頂いたサラ文に感謝致します。（了）



小田原名所案内 小田原城天守閣 編 小田原特派員 府川謙吾

大変長きに渡り御愛読頂いた「ハーフタイムコーナー」も、今月号が最後となります。そのため、最後は府川の地元、小田原の1番の人気スポットとして誰もが知っている「小田原城」をご案内させていただきます。

「小田原城天守閣」は、平成28年1月に、NHKの番組、タレントのタモリと女性アナウンサーが各地を案内する「ぶらたもり」で放送されました。

平成28年5月には、耐震補強工事と展示物のリニューアルも含め、大規模な改築工事を行っています。完成後の「小田原城天守閣」です。 写真 ① ②

今の天守閣は江戸時代末期と言われますが、北条早雲をはじめ5代100年続きました。毎年5月に北条5代を祭り、大規模なパレードが行われ、小田原の大きなイベントに数えられています。

戦国時代は、小田原は元より、相模（今の神奈川）を経て、今の関東地区まで支配しており、その力は絶大だったそうで、関東地区最強との事です。当時は、上杉謙信、武田信玄との合戦もありました。北条5代は非常に強く、負けた事が無かったとか。その当時に造った「総構」（そうがまえ）（城の周りに、敵からの侵入を防ぐため深い堀を造る）は、小田原方面に全長9KMにわたり造られ、その工法はのちに日本各地のお城がならって造ったとか。

また、天正18年、西暦1590年、豊臣秀吉に負け、秀吉の天下統一になってさらにその後からは、江戸幕府直轄の城になりました。

これは、天守閣内部の展示室に展示してあります。因みに、天守閣の高さは全国各地にある城の中で7番目の高さを誇るとか。 写真 ③ ④

小田原は、東海道の宿場町としても栄え、当時は、徳川将軍が小田原に宿泊したり、江戸幕府で使用する食料、主にお米も保管したりしていたとか。

北条早雲の像は、小田原駅西口のロータリーに設置されており、姿形は威風堂々としており、戦国時代最強大名の面影を残しており、今に伝えています。 写真 ⑤ ⑥

小田原と言えば、小田原城、この春、是非足を運んでみては。



2年間にわたる歩き旅を終えて静かな日々を送っています。サラ文通信上ではいつとき皆さんとはお別れですが、日々お会いできるチャンスは増えるものと信じています。例えば3分間スケッチでは新しく「割りばし」を使った簡単スケッチというジャンルを構築しますので小旅行などで実行してみましょ。道具はどこにでもある「割りばし」と墨汁です。色を添えてもいいと思います。さてこのページでは2年間に互る歩き旅の計画時点のエピソードを記してみましょ。旅の中身はblogで詳細に綴っていますのでそちらを参照ください。次のホームページからリンクを張っています。「<http://turbo717.ciao.jp/>」

クラクフからジブラルタルまでを6ヶ月で巡ろうと計画したのは2014年春。しかしながらEU諸国の観光旅行は「どの6ヶ月をとっても合計90日を越えて滞在はできない」としたシェンゲン協定に抵触しますので、3ヶ月毎の2年間にわたる旅としました。日付上は最初のは2015.5.10〜8.9、次のは2016.8.10〜11.9とちょうど連続するように6ヶ月としました。ただ予算上は240万円くらいかかりますので、大蔵大臣に申請をし許可を取る必要があったのです。もとよりそんな自由に使える大金などあるわけがなく悶々とした日々が過ぎていきました。日々マラソンしながら考えに考え、あるとき「一休さん」よろしく妙案が浮かびました。お小遣いを毎月2万円減らしそれを10年間続けると、合計240万。やった!とばかり10年計画の案をカミさんに示しました。しかしながら当座のお金などあろう筈はなくしぶしぶ初回の3ヶ月分の計画だけはokとなったのです。後の方は帰ってからほとぼりが冷めるのを待ちつつもう勢いで日本を飛び出したというのが真相です。いままでの巡礼の旅の行程は下記のような次第です。4-1、4-2が今回の旅でした。

タイトルの言葉はこれから kindle 版でもいいので電子出版できないかと考えて付けた名前です。今はその中身をblogから拾い集めているところです。



昼休みに、五反田の会社近くの銀行で休んでいた。何気なく手にした雑誌に名人・達人の募集があった。早速電話をして、山芋ほりの名人で登録した。飯田橋にあった事務所で、山芋汁をごちそうして認めてもらった。異文化交流が盛んな時で、サラ文もビックパンの様に会員が増えて行った。事務所は飯田橋、新宿と転々としたが、毎週金曜日に集まり、趣味・特技の話から催し物や交流の事やら、ほとんど相手の話も聞かず、それでいて自分にはない物を持っている人達と、楽しくお酒を飲みながら、終電まで熱く語り合ったのを鮮明に覚えている。仕事の話は一切なかった。PTA 会長をしていた小学校に、大八木さんと山谷さんに来てもらい、紙飛行機と連凧 100 個を作り飛ばして遊んだ。無風で凧が揚がらない、これまでかと思った瞬間、神風が吹いて天に突き刺さるように連凧が揚がった。「やったー」と大歓声！夏山限定で、アルプス級の山々にも登った。北岳、仙丈岳、西穂高岳他 20 以上の頂上を制した。山小屋で知り合った男性と今でも年賀状を出している。文科系、芸術系なんにでも参加したが、アウトドアには積極的に参加した。檜原村で夕方から誰もいない峠の茶屋を貸し切りで、握り鮓三昧、鬮鍋でビールを飲んで大合唱、後はぼったんきゅー。那須・塩原高原の塩原温泉に行き、箒川のツリ橋を渡った谷間の平坦地に野営キャンプをした。駐車場から食料、酒、テントなどを 1 時間かけて運搬した。ビールで乾杯、焼き肉、歌、そして夜になり箒川近くにある、混浴露天風呂に行く事となった。照明などはなく月あかりを頼りに到着、男性は脱衣場に脱ぎ捨てるとザブーン、「いい湯だな〜」。サラ文女性が入ってきた。浴衣か水着か着ているかと思いきや、タオル 1 枚だけだった。視線を感じながら、足をチョンチョンと浸けるとスーと入ってきた。三日月だがわずかな月光に真っ白い肌が見える。固唾を飲む男性軍、女性軍が入浴すると、男性軍の体の一部が膨張した為か、お湯がザーと溢れるのであった。サラ文美女 Best4 人の全裸を見たのは、大八木、山谷、本間、府川、坂手のみである。最後には、壮絶な結末が待っていた。酔っぱらった坂手が先にテントに帰ったのだが、脱衣箱を倒してしまい、男女の勝負下着が入り乱れ、山谷さんがブラを着けたとか着けないとか。サラ文の皆さんにお会いできてよかった。

明るい農村たより—3 月—

坂手 毅

昨年 4 枚ある田んぼには、秋田こまちを植えた。田植えと稲刈りは JA に頼んである。途中の肥料と除草剤は自分で蒔いた。後は水の管理だけである。お陰で平均的な収穫はあった。60kg/俵×28 俵、8000 円/俵×28 俵=22.4 万円、JA へ田植え・稲刈り賃 16 万円を支払うと、儲けは殆どなしである。友達の畑を借りて、黒豆を蒔いた。妹の旦那が黒豆の方が米の 2 倍は儲かると言うので植えた。10 アールで 20 万円儲かる所が、悪天候で 2 万円しか儲からなかった。よし、今度はブドウを植えてみよう。幸い温暖化で奥津地方でもブドウが出来だした。教えてくれそうなブドウ農家が近くにある。商売にするには大変だから、お友達に分けてあげられる位の範囲でやろう、出来る範囲でいいから。農家民宿も視野に入れて、講習会に参加してみた。奥津に農家民宿があり、結構東南アジアからも来ている。手伝いに行きながら感触を掴もうと考えている。

<シニアバックパッカー in ヨーロッパ>

(14) イノブロットワフ (ポーランド)

斎藤明雄

ポーランドのトルン駅からTLKと称する長距離列車に乗って約30分、イノブロットワフという駅に停車したときのことだった。

最後部車両の窓越しからふとホームを見下ろすと、初老の夫婦とおぼしき二人が先頭車両の方向をじっと見つめて立っていた。誰かを迎えに来ているようだった。私はすぐ察知した。

その誰かとは、おそらく孫を連れた子供夫婦であろう。前方の車両から降りたはずで、今こちらに向かって歩いているところなのだろう。まもなく私の視界に入るだろう。

ところが奥さんとおぼしき人が、待ちきれないのかそちらの方に行ってしまったのである。ご主人らしき人はボツンと一人、取り残されてしまった。直立不動だった。

私はその姿に妙にひきつけられるものがあり、思わず写真を撮ってしまった。

やがてその婦人が若い男女をつれて現れた。私の想像はおおむね的中した。しかし孫はいなかった。二人は娘夫婦なのであろう。義理の息子と義理の父が握手をする。母と娘はそれを見て笑みを浮かべる。万国共通の平和なひとコマだった。列車は停止したままで、なかなか発車しなかった。



私の趣味

岡田 香則

入会時にお世話になりました大橋様のご逝去心からお悔やみ申し上げます。サラ文通信も残念ながら最後を迎えるとのことで今回が最終になるのでしょうか。私は確か2000年になる直前に入会しまして、沢山楽しませていただきました。皆様本当にありがとうございました。通信はなくなってもサラ文の何物にも代えがたい繋がりは今以上大切に、少しでも存続できるイベントは再開できると良いと思っております。そのためには個々のイベント、プロジェクトを主催者だけが実行するのではなく、動ける人々がみんな協力しあって作り上げることが大事だと思います。さて「私の趣味」は今も大好きな音楽との関わりを自分の出生から書いて参りました。まだまだ途中で終わらざるをえなくなりましたので最後にまとめます。ブラスバンドでジャズのビッグバンドと出会いさらに魅力を見つけました。部で演奏する曲はレコードは高いのでFMで演奏されていれば録音して入浴しながら繰り返し聴いて覚えてさらにジャズが好きになっていきました。ビッグバンドとは映画で知られるグレン・ミラー楽団(ブラスバンドのジャズバージョン)のスタイルで演奏したのもグレン・ミラー、カウント・ベイシー楽団などのジャズナンバー演奏を中心に中高とアルトサックスで活動しました。男子校でした。でも大学ではビッグバンドがなかったためクラシックのオーケストラの部でアルトサックスと吹き方が似ているクラリネットを演奏しました。社会人のアマチュアオーケストラにも所属し、ベートーベン、モーツァルトなどの交響曲を演奏しました。小規模の大学のせいかな十分な団員はいず、演奏会は他大学からの演奏賛助を沢山お願いしました。クラリネットなど吹く楽器は中高のブラスバンドから継続でやる人はある程度いますがバイオリンなど弦楽器は習っている人がほとんどいないのか入らないのかでほぼ初心者(ピアノすらやったことのない)で占められました。年二回の演奏会は皆きちっと交響曲を演奏するので驚きます。慢性的部員不足もあり新入部員を入試合合格者名簿でブラスバンド経験者を見て電話勧誘するのですが多くの方は吹奏楽コンクールなどで燃え尽きてしまい、大学では楽器はやりたくなく、遊びたいという人がほとんどという事実には驚きました。実はこれは今大人のアマチュア音楽もそうで高校までは特に女子生徒のブラスバンド人口は大変多く、盛んでレベルも高いのですが恐らくコンクールに勝つため先生の指導の厳しさなのか、卒業後、音楽から離れるどころか趣味すらなくしてしまう人がなんと多いのか!これが今回まで私の連載の結論の1つなのです。早足でありましたが私自身こうして下手の横好きではあっても音楽を好きでい続けられたのは本当に良かったし、何より会社や社会ではあまり認められなかった(むしろ嫌がられたところも多い)クラシックやジャズの趣味を正面から見ていただけて、貴重な活動の場も沢山用意していただけたサラ文の方々には本当に感謝しています。その意味からもサラ文活動は特に人脈を大切に可能などころから再生、続けていければと思っています。ありがとうございました。

2017年3月 事務所活用表

事務所を有効活用しよう 皆さんの趣味活動にご活用ください

午前(9:00-12:00)、午後(13:00-17:00)、夜(18:00-21:00)の3コマ。 1コマ1人¥300。

午前→午後の継続利用は、従来通り、1コマ扱いとします。空き時間を有効活用ください。

追加・変更は、下記に連絡ください。友人・団体などがご利用の場合も、同様相談ください。

担当(代行: 東山道之 03-3361-5297 higashiyama@jcom.zaq.ne.jp) ←メールアドレス注目。

		午前 (9:00-12:00)	午後 (13:00-17:00)	夜 (18:00-21:00)
1	水		幹事会	幹事会
2	木			
3	金			
4	土			
5	日			
6	月		古文書昼	
7	火		緑酔会	緑酔会
8	水			
9	木		斎藤氏	古文書夜
10	金			
11	土			
12	日			
13	月			
14	火		緑酔会	緑酔会
15	水			幹事会
16	木			
17	金			
18	土			
19	日			
20	月			
21	火		緑酔会	緑酔会
22	水			
23	木			古文書夜
24	金			
25	土		純バの会	
26	日			
27	月		古文書昼	
28	火		緑酔会	緑酔会
29	水			
30	木			
31	金			

サラ文「篁乃壺」俳句作品（一月）

破魔弓を授くる巫女や幼な顔

河東みどり

砂が飛ぶ大嶽部屋の初稽古

真篠くにの

松飾りあがなう繩の輪に誓う

和田陶仁房

御来光天下我が物富士山頂

藤井 忠生

初春や富士を味方に自撮りする

鞠子加代子

参道に日射し集める福寿草

大橋 萩女

秀麗な富士より昇る初茜

町野千代女

お天気のお姉さん

佐藤啓子

仕事から、日頃、風邪をひかないよう気を付けている。そのため、気象情報は丹念に観る。TVには、いろいろな気象予報士さんが登場されるが、毎日観ていると、自然にお気に入りの人ができる。その私のお気に入りさんは、三人いる。

みなNHKに出演される方だが、まず、渡辺さん（女性）。早朝、屋外での気象情報で、冬などは、まだ暗いうちからの出演だ。スタジオの女性キャスターが、「では、次は気象情報です。渡辺さ～ん、おはようございます」と呼びかけると「はい、おはようございます」と言って登場される。この方は「今日は、半袖で大丈夫です」とか「羽織るものが必要ですね」また冬だと「このように、マフラーと手袋もご用意なさってください」と、実際に身につけているものを、示しながら、お話される。若い方のようなので（二十代か？）、熟年の私は、ちょっと加減して考えなければいけないのだが、大変、参考になる。「そこまでしなくても・・・過保護じゃないか？」と思われるむきもあるかもしれないが、一人暮らしの私には、ありがたい。

次に平井さん（男性）。この方は、ずいぶん長い間、NHKに出ていらっしゃる。もう中年なのかもしれないが、いつまでも、爽やかな好青年のような雰囲気を持つ方だ。屋外でのスポーツがお好きだそうで、なるほどとうなずける。ベテランということもあり、私は、この方に一番信頼を置いている。

最後に、南さん（男性）。なんだかおじさんぽい印象の方ではある。下手な（ごめんなさい）川柳や俳句を時々、披露される。関西のご出身らしく、言葉になまりがある。NHKに出演される方には珍しいと思う。だが、そこが人間らしくていい。なまりが全然ない人なんて、NHKのアナウンサー以外、それほどいないのではないかな。

毎朝、出勤前に顔を出す弟は、私が気象情報を熱心に観ていることを知っているのので、私に「今日の天気は？」と訊くことが多い。弟にとっては、まさしく私は“お天気のお姉さん”なのだ。

あなたの趣味、特技、活動を発表できます！ 小林雅一

私は現在、地域の方々に毎週無料教室(脳トレ教室・歌声教室・映画鑑賞会)を開き、おかげさまで大勢のシニアの方の喜ばれて5年目になります。この度、毎月第三日曜日の13:30~16:30の3時間の枠で「日曜バラエティ」という名称で、ご自分の趣味、特技、研究発表等、なんでもアピールできる時間を設けました。3月19日(日)がスタートで、ぜひあなたのご出演をお願いいたします。なお、毎月行うので希望月をご連絡ください。出演料はお支払い出来ませんが、良い発表の方には、「投げ銭」「おひねり」「ご祝儀」等があります。詳細は下記の「日曜バラエティ」をご覧ください。

地域の無料教室のご案内

毎週水曜日	
9:00~ 10:00	脳トレ・9時教室 面白スクール
10:30~ 11:30	脳トレ・10時半教室 面白スクール
11:45~ 13:20	歌声教室 ともしび
13:30~ 14:30	脳トレ・1時半教室 面白スクール
14:45~ 17:00頃	映画鑑賞教室 洋画

毎週木曜日	
9:00~ 10:15	歌声教室 抒情歌A
10:30~ 11:30	脳トレ・10時半教室 面白スクール
11:45~ 13:20	歌声教室 抒情歌B
毎週金曜日	
9:00~ 11:00頃	映画鑑賞教室 邦画



毎月・第三日曜日	
13:30	日曜バラエティ ・エンターテイメント ・プレゼンテーション ・ワークショップ
16:30頃	落語、演奏、朗読、芝居、花、 作品、似顔絵、手芸、料理、 創作、絵画、写真、体験記、 体操、芸術、研究発表・・・等

会場：赤堤生涯学習センター
世田谷区赤堤1-41-24
小田急線経堂駅北口より徒歩3分

★ジャンルなし
プロ・アマ問わず出場者募集中！
マイク・スクリーン・プロジェクターあります

主催 小林雅一
090-3007-6571
dqn00472@nifty.ne.jp

表紙の言葉

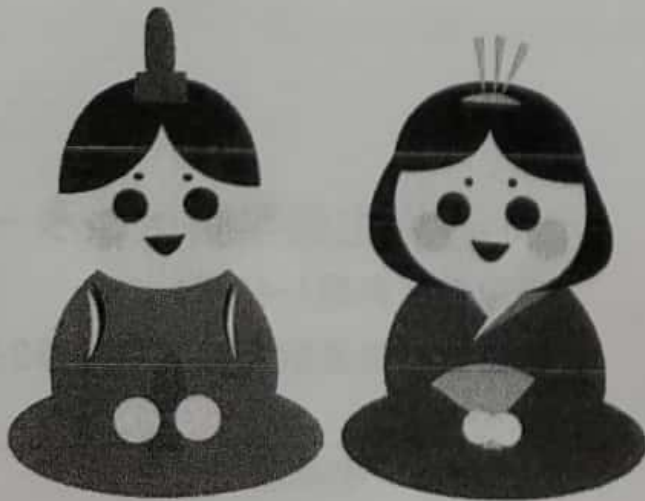
市ヶ谷土手でのお花見は朝から場所を取りに行きそのまま宴会になります。芸の披露などで見物人を巻き込みそれで会員になった人もいました。

今日は2月23日。新宿の町はサラ文の事務所も残り2か月となりました。事務所がなくなってもサラ文仲間とは引き続き遊びを中心とした集まりを継続してゆきたい。そんな次の付き合いを考えているこの頃です。
 <山谷>

20数年前から通信の編集に携わりました。パソコンなどの装備はありませんでしたし、事務所も転々と変わりました。原稿を送ってくる人もメールなどでなく、手書きでしたからそれを切張りなどして今から考えると実に原始的な方法でしたが、世間はあっという間にIT化しました。感無量です。
 <落合>

長い間のご愛読ありがとうございました。

さようなら！



大橋英敏氏の逝去を悼む

和田秀雄

サラ文2月号で大橋英敏氏の訃報を知り断腸の思いであります。永年にわたってサラ文の事務局長としての重心的存在でした。一昨年五月サラ文総会の日、明治座近くの老舗蕎麦店で偶然お目にかかったのが最後でした。思えば昼時の僅かの時間でしたが、サラ文のこと、篁乃壺俳句会のこと、など二人の会話も何か因縁だったのだろうか。今は、あの温厚で博識のお人柄の大橋さんに、せめてサラ文の幕引きをも見届けてほしかったとの思いでいっぱいです。ここに生前に賜った数々のご厚情に深謝を申し上げます。謹んで哀悼の意を表しますとともに心よりお悔やみ申し上げます。

いよいよ最後の編集後記です。編集委員の皆さんが出稿して下さった原稿を点検し、プリントミスを修正していたことを懐かしく思い出します。各種の会の行事に参加できない会員にとって会と会員を繋ぐ唯一のコミュニケーション手段がこの「サラ文通信」でした。毎回編集会議を終わるとホッとしたものでしたが来月からこの編集後記を書くことが出来ないのが残念です。
 <大八木>

今日の編集日で作業はおしまい。肩の荷がおりた気分ですが、何と！プリンターが壊れたのです。プリントできないページは個人のパソコンへ送信して個人のプリンターから印刷してとの大変な苦勞でした。
 <品川>

